

和歌山縣鑛泉一覽

特44

696

會 函 架 號	館籍書會育教本日大			東 新
	室五第			
	一册	一〇架	三函	

025724-000-2

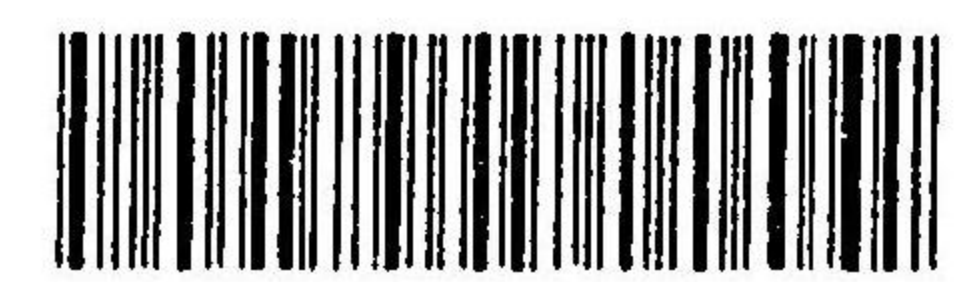
特44-696

和歌山縣鑛泉一覽

和歌山縣衛生係／編

M11

ADC-3258

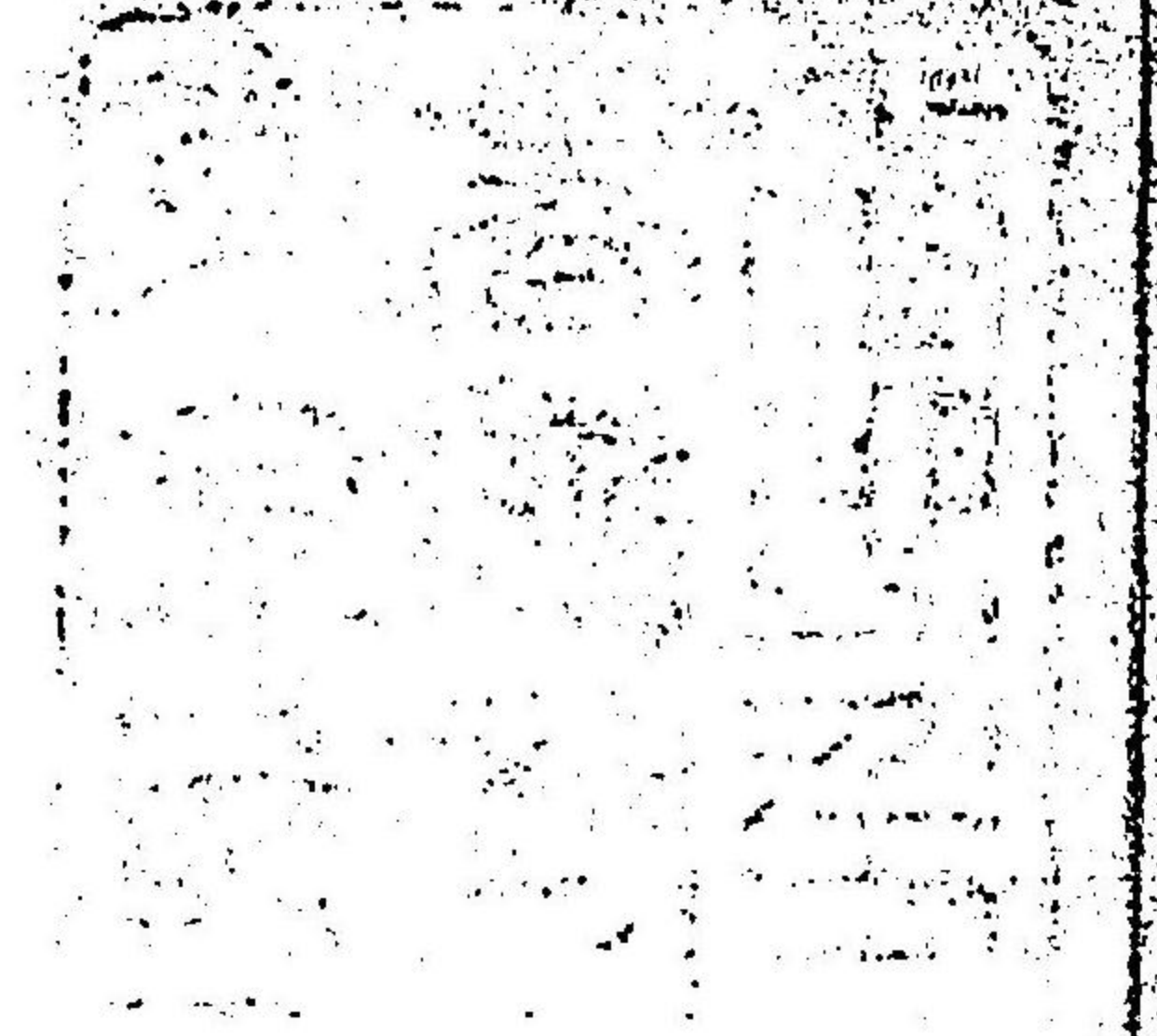
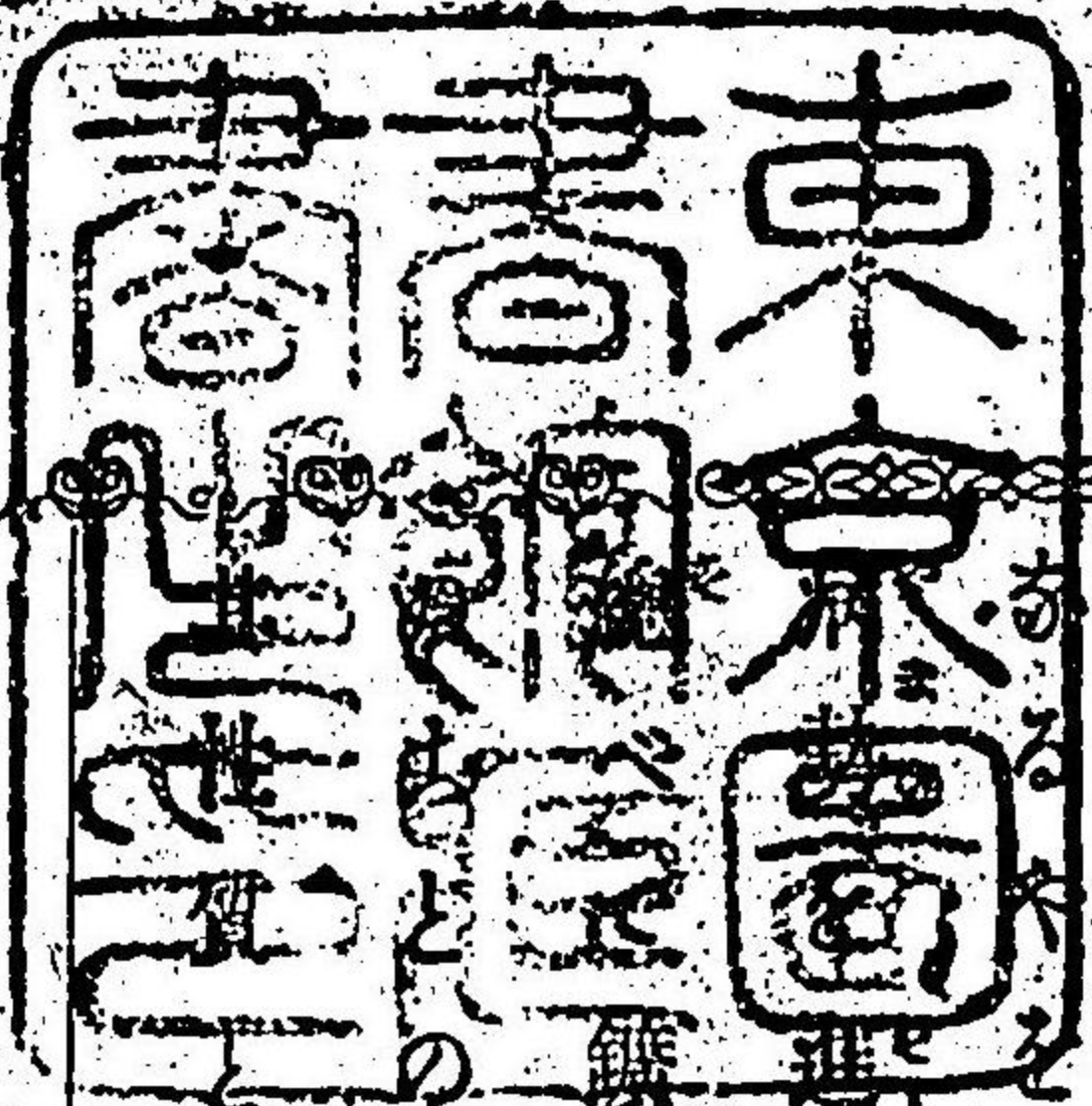


和歌山縣鑛泉一覽

和歌山縣鑛泉一覽

總論

鑛泉は疾病に功能あるの皆人の知る所ろあして實  
 上天與の良薬とも言ふ可きなり然れども鑛泉でさへ  
 あれ何れ様な疾も薬に爲ると言ふ譯あらず此  
 の鑛泉の如何なる功能ありや其性質の如何なる成立  
 能く吟味して入浴せざれば或は健康を害し  
 ひるも保ちがたし  
 泉の其人は性質と病症に依りて適ふと適  
 するものあて先づ入浴せんと欲するときは  
 病症とを能く診察して此病症の何處の鑛泉



お浴それの功能あり此性質の彼處の温泉に適當と云ふことを試みて入浴せねばならぬなり我が牟婁郡の如きの殊と云ふ温泉も富みて従來自他に便益を與へしよと少くあらず然れども往時學問の開けざりしより其原質功用的如何を知らざるを以て全く其功益の著るしさを受けて天與の幸福と空しくせし遺憾しき限りにぞある

ざるを以て前さに縣下は名高き温泉を衛生局が送致し其試験に依りて原質效用を詳らうとせられの廣くこれを世に告げて人々も便益を與へんと欲するあり備て其試験を受けて原質效用を詳らうとせざる温泉

龍神の湯勝浦湯の峯、楮の湯、濱湯、栗湯、元湯、崎の湯、屋形湯、磯湯、疝氣湯、等十一泉として濱湯以下の七泉の彼の鉛山の七湯と稱ふるものは是れあり其泉質の勝浦を除くの外皆な類似のもに於て多く強き「アルカリ」(灰汁)類なり此れは炭酸曹達(蘇蓬鹽)と重炭酸曹達(蘇蓬鹽)の属の多量を含むに依る然れども其「アルカリ」は強弱に至りて自ら同たりならず乃ち前の三湯の後七湯より弱きが如し併し本邦中無比は「アルカリ」泉ありとや此の「アルカリ」泉は大量の炭酸曹達は外更に程よき「コロイド」(食鹽)を含むを以て彼の含鹽亞兒加里炭酸泉(塩と灰汁を含む

程よき泉)お入るべきものにして醫術中尤も要用の藥泉ありとぞ併のみならず此泉の内用するも效能ありと云ふ

第一 龍神の湯

此水の透明無色にして臭氣なく亦沈澱するまとなし之れを振り動すとさき甚だ氣泡を生ず味の稍鹹くして微弱灰汁のおとし  
本重の攝氏十七度半は熱めて一〇〇二あり(攝氏十五度の淨水を一位とす)其反應(反へし)顯える、と初めの弱アルカリ性おして煮沸後の稍強性とある然れども炭酸と發揚せき又沈澱を生ずるまとなし

此水「リートル」(五合五勺〇六九六二一以下做之)と取り蒸發して攝氏百度の熱お乾し固形分全量一、〇〇七三三「ガラム」(二分六厘八毛一一四一〇三以下做之)と得其成分の食鹽尤も多く重碳酸曹達之よ亞ぎ少しの重碳酸亞酸化鉄と極めて少量の重碳酸石灰(大理石)と硫酸石炭(石羔の属)の痕跡あり故に此水の極めて弱アルカリ性炭酸泉お属と

第二 勝浦

此泉の微お透明にして振動うせば氣泡を生ぜ其臭の強硫化水素を兼て味の不快は灰汁様あり  
本重の攝氏二十二度の熱めて一〇〇四なり其水始め

「アルカリ」性にして煮沸すれば益々強アルカリ性となり炭酸及び遊離硫化水素氣を發し少しの沈澱を生じ此水「リットル」を取て攝氏百度に熱に乾らせば固形分全量二、九〇三「グラム」と得其成分の食鹽尤も多く硫化水素氣、重炭酸石灰之の亞「コロール、マシヤム」(鹽酸「マシヤム」之の亞て中等量に居り重單炭酸「ソ」)又之の次は硫酸石灰重炭酸亞酸化鐵極めて微量にして蒸發後母滴中「プロミューム」(臭素)は痕跡を見る故に此泉の「アルカリ」性硫黃泉にして其硫化水素氣を富めるものとす

硫黃泉の伊豆相模杯のれども此泉の如く「アルカリ」

性硫黃泉の實に無比の良薬と云ふべし

今其内外服用して尤功能有る

慢性の筋攣麻痺、及筋の拘攣、數多の皮膚病、「アキゼ

ーマ」「マリユ」「エ」「アリ、アレス」慢性の「アリシベラ

ス」、煤毒、鉛毒、水銀毒、下腹充血、咽喉の慢性

加苔兒、子宮及卵巢の慢性炎、月經不調、神經痛

等の病とす

### 第三 湯の峯

此礦水の微く透明にして振盪せし少し氣泡を生ず臭の稍、硫化水素氣も帯び味の微弱液汁の如し本重の攝氏十七度半の熱にて一〇〇二五あり其反應

初め弱アルカリ性にして煮沸後の強アルカリ性となり炭酸を發生せ然るも沈澱することなし其水一リートル中固形分の全量一三三六「ガラム」にして其成分の極て多量の食鹽重炭酸ソーダと少量の硫酸石灰極微量の「コロトルカリウム」(鹽酸加里)「コロルマシチシウム」と重炭酸亞酸化鎂「マロムリシウム」(臭酸曹達)及硫化水素氣の痕跡あり故に此泉水亦「アルカリ」性炭酸泉に弱硫化水素氣を混有す

#### 第四 糖湯

此泉の透明にして沈澱を見ず臭の硫化水素氣にして味の硫化水素を微の灰汁を兼ねたり

本重の攝氏十七度半の熱めて一〇〇一九たゞ其反應の初め弱アルカリ性にして煮沸せれども混濁せせ然るも稍強アルカリ性となる

此水一リートルに固形分〇三一八七「ガラム」を含めり其成分の多量の硫化水素、重炭酸「ソーダ」硫酸石灰、及少量の食鹽と「コロルマシチシウム」の痕跡となる故に此泉の極て弱き硫黃泉に屬す

#### 第五 濱湯

此礦泉の少く濁り且少しの沉渣あり振動せば氣球と發そ其味の鹹味ありて臭氣ありし  
本重攝氏十五度にて一〇〇九なり

之を煮るも濁らず但し亦多量の炭酸と發揚し強アルカリ性を反應せ

此水一リートル中みて固形分四、九六六三「ガラム」と得たり其成分の極て多量の炭酸「ソーダ」重炭酸「ソーダ」及食鹽と少量の重炭酸亞酸化鎂珪酸礬土、及有機物と極微の「コロールカリウム」「エロームナトリウム」にて其多量の三物の崎の湯に比ぶれば亦頗る多し

#### 第六 栗の湯

此水の透明にして無色無臭なり其味の鹹苦にして食鹽の如し振蕩すれば氣泡を生ず

本重の攝氏二十二度の熱にて一〇〇八なり

其水の初め著しアルカリ性を反應し之を煮沸すれば益強きアルカリ性を顯し又炭酸と發生を爾後沈澱と生ずるなし鹽酸を由て強く沸騰せ

此水一リートルを蒸發し攝氏百度の熱にて乾せし固形物全量三、六七四五「ガラム」を得たり其成分の極めて多量の食鹽及重炭酸「ソーダ」と少量の重炭酸石灰重炭酸亞酸化鎂、鹽化「マグネシウム」と極て微量の硫酸石灰と鹽化「カリウム」(加里)「ブロシニウム」(臭素)の痕跡なり

#### 第七 元の湯

此泉も亦透明無色にして無臭なり味鹹苦にして振蕩すれば氣泡を生ず



本重の攝氏二十二度の熱にて一、〇〇六七あり其反應の「アルカリ」性にして煮沸後益甚しく且炭酸氣を發揚し汚泥を沈生することなし鹽酸を注げり甚く沸騰す此水一「リートル」を蒸發して攝氏百度の熱にて乾し其固形物を秤るゝ四、五一二五(グラム)を得たり其成分の亦極めて多量の食鹽及重炭酸(ソーダ)にして少量の重炭酸亞酸化鎂と重炭酸石灰、硫酸石灰(コーロルカリウム)(鹽酸加里)の痕跡あり

第一八 崎の湯

此水の澄清よして沉渣亦く臭氣なし氣味甚しく鹹味強く恰も食鹽と重炭酸(ソーダ)との混溶液の如し

本重攝氏十五度の熱にて一、〇〇七五あり新に汲めるもの「アルカリ」性を反應そ之を煮るの後も澄むあれども「アルカリ」性益強く且之を煮るの際多量の炭酸を發揚す

此水一「リートル」を煮て得る所の固形分を攝氏百度の熱めて乾し其量四、五四(グラム)を得たり其成分の極めて多量の食鹽炭酸(ソーダ)及重炭酸(ソーダ)にして其他少量の重炭酸石灰と極めて微量の「コーロルカリウム」硫酸石灰、重炭酸亞酸化鎂、重炭酸「マンチンア」「ブロームリッウム」あり故に此水の鹽類も乏しけれども大に單重兩炭酸(ソーダ)に富み食鹽亦多きを以て之を食鹽

「アルカリ性炭酸泉の部属とす

第九 屋形の湯

此水も透明にして無色無臭なり

本重の攝氏二十二度半の熱あり、〇〇五八あり其「アルカリ性」及炭酸を發揚するの狀亦總て元の湯等と同じ

其水を蒸發し攝氏百度の熱めて乾せば其固形分四、〇五六三「グラム」を得其成分の食鹽極て多く炭酸及重炭酸「ソーダ」之「お」少量の重炭酸亞酸化鎂、硫酸石灰と「コロールカリウム」重炭酸石灰の痕跡あり

第十 礦湯

此水透明無色にして味と亦粟湯と同じく振蕩すれば亦氣泡を生ず

本重の攝氏二十六度の熱めて一、〇〇三六あり其水の初め弱「アルカリ」性を反應し煮沸すれば強「アルカリ」性を呈し亦炭酸を發揚し少く溷濁を生ず鹽酸も由て強く沸騰す

此水「リットル」を蒸發し攝氏百度の熱めて乾したる後固形物の全量三、六七四五「グラム」を得た其成分の極めて多量の食鹽にして重炭酸「ソーダ」之「お」少量の重炭酸石灰と極めて微量の硫酸石灰と「コロールカリウム」の痕跡あり

第十一 疝氣の湯

其色味振蕩の狀屋形湯も同じく臭氣の稍々硫酸化水素氣も似たり  
 本重の攝氏二十二度の熱めて一〇〇五六なり其アルカリ性の反應亦前の諸湯に同じ  
 其一「リートル」を蒸發し其固形分を攝氏百度の熱にて乾かせば全量三、八五二「グラム」と得其成分の食鹽及び重碳酸ソーダ極めて多量よして少量の「コロールカリウム」硫酸石灰と極めて微量の重炭石灰と重炭酸化鎂の痕跡あり

今此等の諸泉を並べ固形分の多少を比較すれば

左の如し

湯名	泉属	固形分
濱の湯	含食鹽「アルカリ」性炭酸泉	四、九六六「グラム」
栗の湯	全	四、六六一「グラム」
元の湯	全	四、五一二「グラム」
崎の湯	全	四、三五五「グラム」
屋形湯	全	四、〇五六「グラム」
疝氣湯	全	三、八五一「グラム」
礦湯	全	三、六七四「グラム」
龍神湯	「アルカリ」性炭酸泉	一、〇七三「グラム」

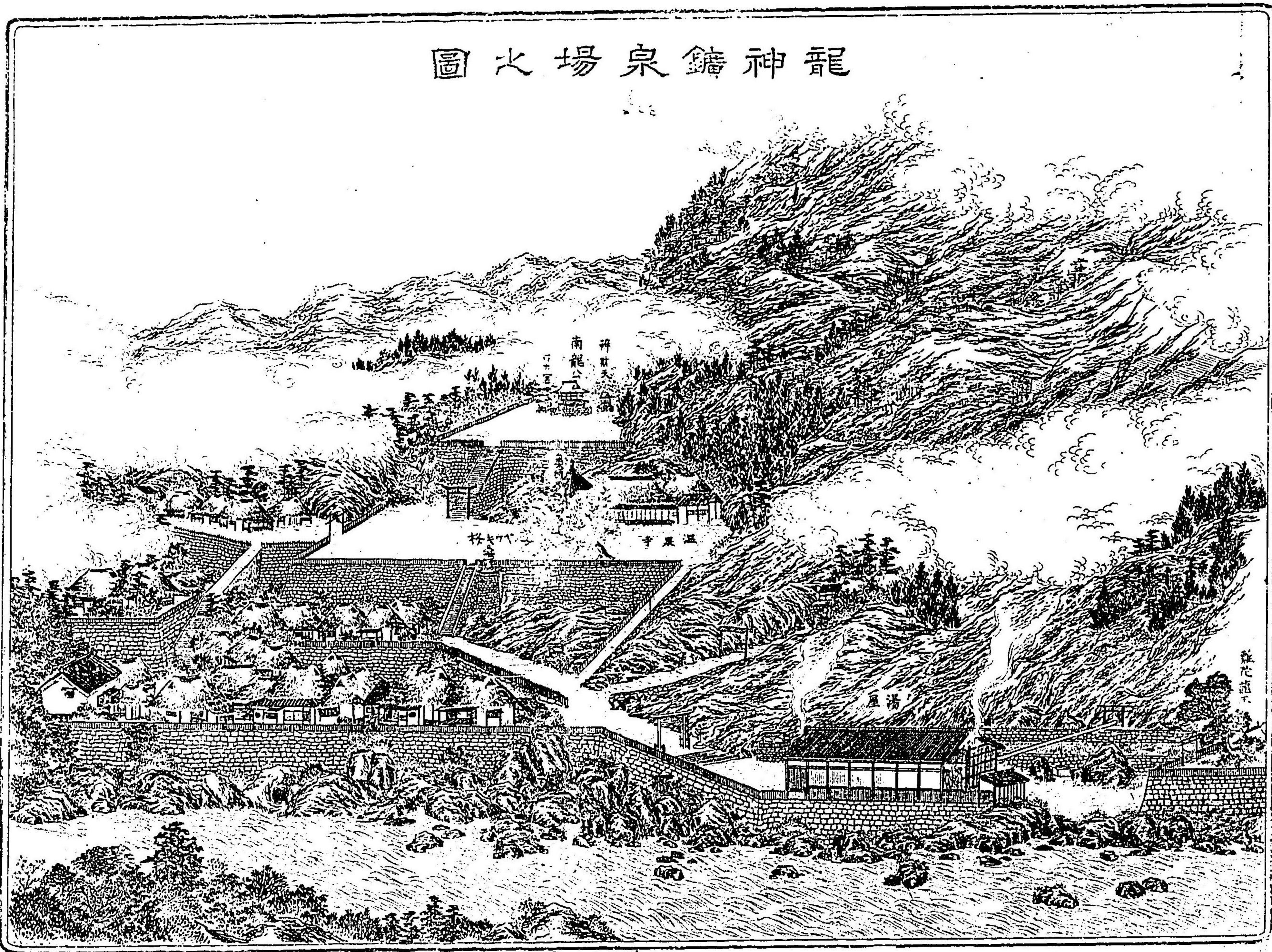
今此等の湯に應用ある諸症左の如し  
 諸般の加苔兒性粘膜炎即ち氣管支加苔兒咽喉加苔兒及び咽喉部の慢性加苔兒に罹れる部より出血するも

のに含嗽料として用ゆ  
胃弱酸敗慢性下痢等の總べて加苔兒性も係るもの胆  
道加苔兒膀胱加苔兒瘰癧性病者の肺癆に爲らんとす  
る者、(但し既み結核の徴と見はしたるもの肺充血又  
屢々發熱する病者の諸泉共に攝氏三四十度の温度  
なるがゆへは咯血の恐れあり入浴をべからせ(腺腫及  
び腺病症の骨節病月經不整貧血萎黃病等に起因せる  
「ヘーステリ」(痲病)婦人白帶下及び子宮焮衝病に  
腔内注入薬となす)但し温度の攝氏二十七八度なるべ  
し便秘等

用法

鑛泉外浴の熱度の大抵攝氏三十六度乃至三十七度華  
氏九十八度乃至百度を過ぐ可からせ然れども其熱度  
と低下するが爲めに常水を加ふ可からせ只長く放冷  
えて適度に至らしむべし浴數の老人の一日一回壯者  
の三回を過とべからせ内服も亦一日四「オンス」(大約我  
八匁)多き十二「オンス」を限りとを時として牛乳三  
分一を和せて飲むも宜し亦其熱度の攝氏三十度華氏  
八十度を越ゆべからせ(岸田吟香氏の浴法)温泉の飲み方の朝食前  
と午後の空腹の時をよしとす飲む分量の人によりまた温泉の成分に依りて同  
じからざれども大抵一度に並の酒盃一盃より二三盃ぐらいを用ゆべし多く  
飲みて胃に支へるほどあるに却て大害を引き出せことあり且つよの湯を飲た

龍神鑛泉場火圖



る時より短くとも半時はとも間と置かざれば外の水茶を飲み又ハ食事などするまど勿れと云（り）

湯名 泉 属

固形分

勝浦 「アルカリ」 硫黄泉 二、〇九〇三、ガラム

湯の峯 弱「アルカリ」性硫黄泉 一、三三六「ガラム」

椿湯 弱硫黄泉 〇、三一八「ガラム」

此等の湯ハ應用する諸症ハ左の如し

慢性痲痺質私、骨痛關節強直、慢性皮膚病、（疥癬、疥癩等）

腰痛、便秘、酸敗、下痢、鈍性潰瘍、腺病、痔血、蠟毒、癩疥、疥癩等

ハ他の金属中毒膀胱加苔兒

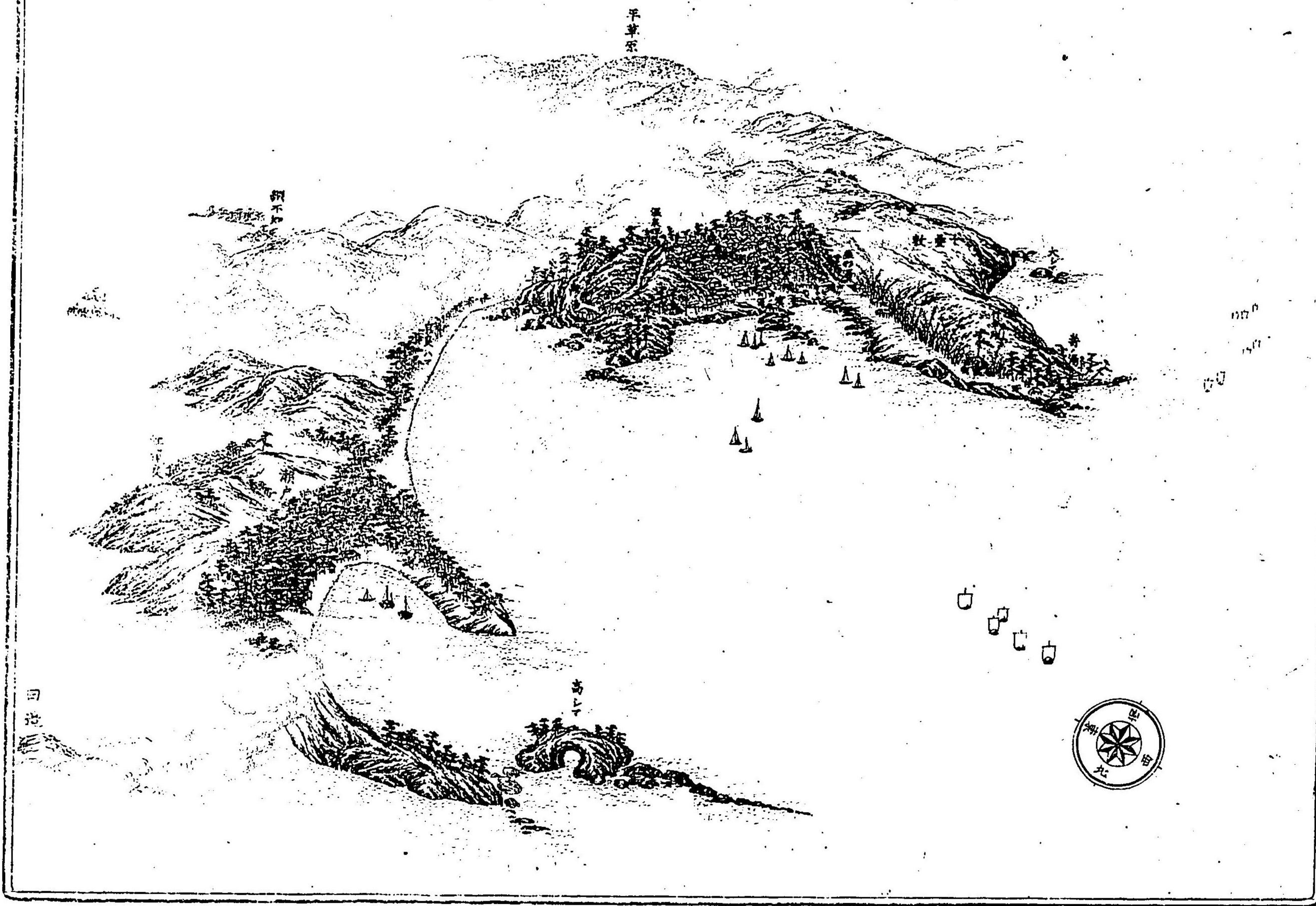
用法如前

勝浦鑛泉場火圖



勝浦

瀬戸鉛山鑛泉場火圖



泉名	廣	深	熱度	位地	戶數	產
龍神ノ湯			四十九度弱	日高郡龍神村	百五戸	茶、檜、籠、椎
勝浦			三十六度	牟婁郡勝浦村	二百七十二戸	鴨頭、酒盜
湯ノ峯			三十三度弱	全湯ノ峯村	二十戸	
椿ノ湯	方深 壹四坪尺		淵湯口湧出二十八度弱 滿溢二十二度弱	全朝來歸村	百四十四戸	
濱湯	全全 貳五尺坪余		全全 四十二度強 二十七度	全 鉛山村	三百二十三戸	鯖子
粟湯	深徑横 一尺余 三尺五寸 二尺		全全 二十四度弱乃至四十九度 二十四度弱乃至三十八度弱			干鮑
元ノ湯	方深 一尺余		全全 二十八度弱乃至四十九度弱 四十四度弱乃至三十八度弱			鯖ノ小
崎ノ湯	全全 五二尺五寸坪		全全 度外熱甚 三十七度			鮑粕漬
屋形湯	全全 三五坪尺		全全 四十九度弱 四十三度強			海苔
鑛湯	全全 三五坪尺半余		全全 四十三度強乃至四十九度弱 二十八度強乃至三十七度弱			寒天
疝氣湯	全全 一二坪尺		全全 四十九度弱以上 四十三度強			一葉





二葉表五行 灰汁ノ類ハ鹽類ヲ含メルモノ、微ハス性質ノ誤リ 二葉裏九  
行 反ヘシ顯ハル、トハ其含メル品物ニ由テ試檢上ニ微ハス發顯ノ誤リ  
三葉四行 食鹽最モ多ク重碳酸曹達之ニ亞ギハ重碳酸曹達尤モ多ク食鹽之レ  
ニ亞ギノ誤リ 同五行 大理石ハ大理石ノ誤リ 同六行 硫酸石灰ハ石灰ノ誤  
リ 同裏五行 重碳酸石灰之ニ亞ギ六行 重碳酸曹達又之ニ亞ギハ重碳酸石灰  
ハ適宜ニシテ重碳酸曹達ハ最モ多キノ誤リ 四葉表三行 四行 アキセーマハ  
エシセーマノ誤リ ナリユリゴハ プユリユリゴノ誤リ フリ、アシスハア  
ソリアシスノ誤リ アリシペラスハエリシペラスノ誤リ 五葉表二行 其反  
應ハ初メ弱アリカリ性ニシテ云々ハ反應ハ中性ニシテ煮沸スレバ弱キアリ  
カリ性トナル然レハ潤濁セズノ誤リ 同表五行 多量ノ硫化水素、重碳酸曹  
達、硫酸石灰ハ少量ノ硫化水素適宜ノ重碳酸曹達中量ノ硫酸架基ノ誤リ  
同七行 硫酸泉ニ属スルハ僅ニ炭酸泉ト唱エ得ルモノニシテ少量ノ硫化水素ヲ含  
ムノミノ誤リ 同裏四行 多量ノ成分中重碳酸石灰ヲ脱セリ由テ加フ 六葉  
裏六行 多量ノ食鹽ハ少量ノ誤リ 八葉裏九行 重碳酸石灰ハ重碳酸石灰ノ誤リ  
重碳酸化鉄ハ重碳酸亞酸化鉄ノ誤リ 十葉五行 一日四ホンス 大約我八匁  
ハ一日四オンス 一オンスハ大約我八匁ノ誤リ

和歌山縣衛生係  
新起

編輯兼出版

明治十一年十二月

和歌山縣衛生係

和歌山縣衛生係  
新起

定價八錢

第一區一小區八番丁一番地  
印刷賣捌所奎文社

